

## 2017年3月期 1Q 決算説明会 Q&A サマリ

2016年8月10日時点

Q 市場環境に変化はあったか？

A アップストリームが苦戦しているが、対前年でみると市況は良くなってきている。基本的には中東・日本をはじめ堅調な地域・業種(ダウンストリーム)に大きな変化はない。

Q CAPEX、OPEX 投資ともに厳しい状況にあるなか、競合他社に比べ良い状況にある理由は？

A 地域としては、当社の実績が多い中東、アセアンを中心に底堅い状況にあり、中国も少しずつ成果が出始めている。業種としてはダウンストリームに強みがあり、その成果が出たと考えている。

Q 受注について、海外の状況はどうだったか。

A KBC 社買収と為替の影響を除く実質では、前年度比 43 億円の減であった。特に前年度は中東で大口のジョブが複数あったことが影響している。四半期の比較では前年度比マイナスとなっているが、年間での計画は変更なく、ほぼ計画通りに推移している。受注については前年に大きなジョブを受注したことなどで大きく変化するため、単月や四半期での比較はあまり意味がなく、通年でみてほしい。

Q 受注について、国内の状況はどうだったか。

A 前年同期は環境関連（上下水道）の大口JOBが複数あったことから大口が減少したが、小口は堅調である。全体として国内市場は底堅く推移した。営業体制を強化し、お客様密着型のソリューション体制とした。代理店と一緒にやっている成果がでている。日本市場はソリューションタイプの仕事ができていると考えている。

Q 売上が計画を超過している理由は？

A 国内が堅調である。受注残が順調に積み上がった結果である。海外は対前年同期でみてアセアン・中国が伸びている。中東については、ほぼ前年度並みの横ばいである。

Q FY16 のコスト削減額の Target は 43 億円としているが、1Q での進捗状況は？

A 原価側で約 3 億円、販管費側で約 3 億円、合計約 6 億円を改善した。グローバル物流等のコスト削減施策は順調に進捗しており、2Q 以降に効果が出てくるものと期待している。

Q 1Q で戦略ジョブによる粗利悪化が 10 億円であったが、さらに悪化することがあるか？

A 前年度は、戦略ジョブの費用が 1Q に発生しておらず、費用が発生した 2Q~4Q で約 10 億円の粗利悪化となった。今年度は戦略ジョブの費用を 1Q に集中して使ったことで、前年度比で粗利悪化となったが、2Q~4Q では、粗利改善に効いてくるとみている。

Q 戦略ジョブはどのように実施しているのか？

A ある一定の規模の中で、個別に判断し、戦略的意図をもって対象ジョブを厳選しているため、全体のなかでの影響は軽微で

ある。弊社のビジネスは初期導入した時点だけではなく、導入後のライフサイクルのなかで収益を上げていくビジネスモデルであり、最終的には黒字転換していく。また、受注時点で赤字でも、ジョブを遂行していくなかで利益改善に努めるので、将来の収益性に大きく影響するようなことはない。

Q 英国の EU 離脱に関して、KBC 社買収後の影響は？

A 英国の EU 離脱の影響は大きくない。ポンドから円の為替のインパクトは受注・売上にはあるが、ポジションとして 2 %程度しかない。営業利益は、売上がドル建てでコストがポンドだとプラス方向に振れるが、その影響は小さい。

Q 実効税率が上昇した背景は？

A 主に、円高によって国内連結納税会社の課税所得が減少したことによる。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解しやすいように部分的に加筆・修正しています。